

magazine kobekko april 1967 no, 72

郷土を愛する人々の雑誌

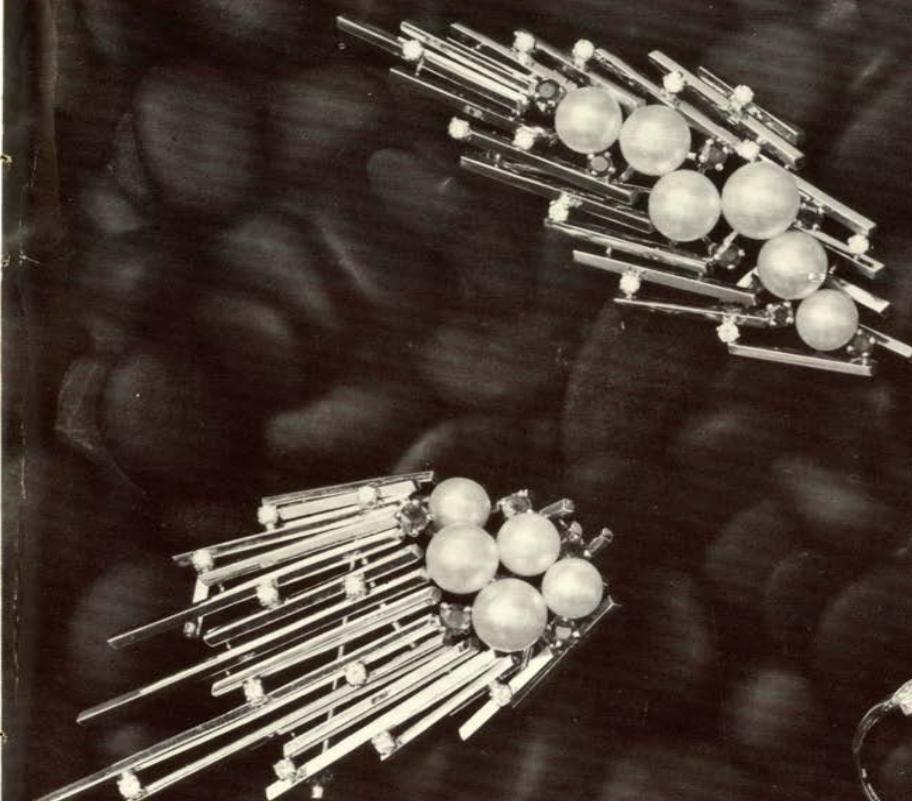
神戸っ子 4



R.Kaizo

神戸っ子
昭和四十年一月一日第一号
郵便物認可
昭和四十二年四月一日印刷
通巻七十二号
昭和四十二年四月一日発行
毎月一日一回発行

優雅なキラメキをそなえた
新しい感覚のデザイン
ミキモトパール
宝石の女王と呼ぶに
ふさわしい気品と輝きを
秘めています



御木本真珠店

神戸＝三ノ宮－神戸国際会館

TEL. 22-0062

大阪支店＝堂島－新大ビル

TEL. 363-0247

京都＝ミキモトパール京都(新門前通り)

TEL. 54-8171

都ホテル・京都ホテル・京都国際ホテル

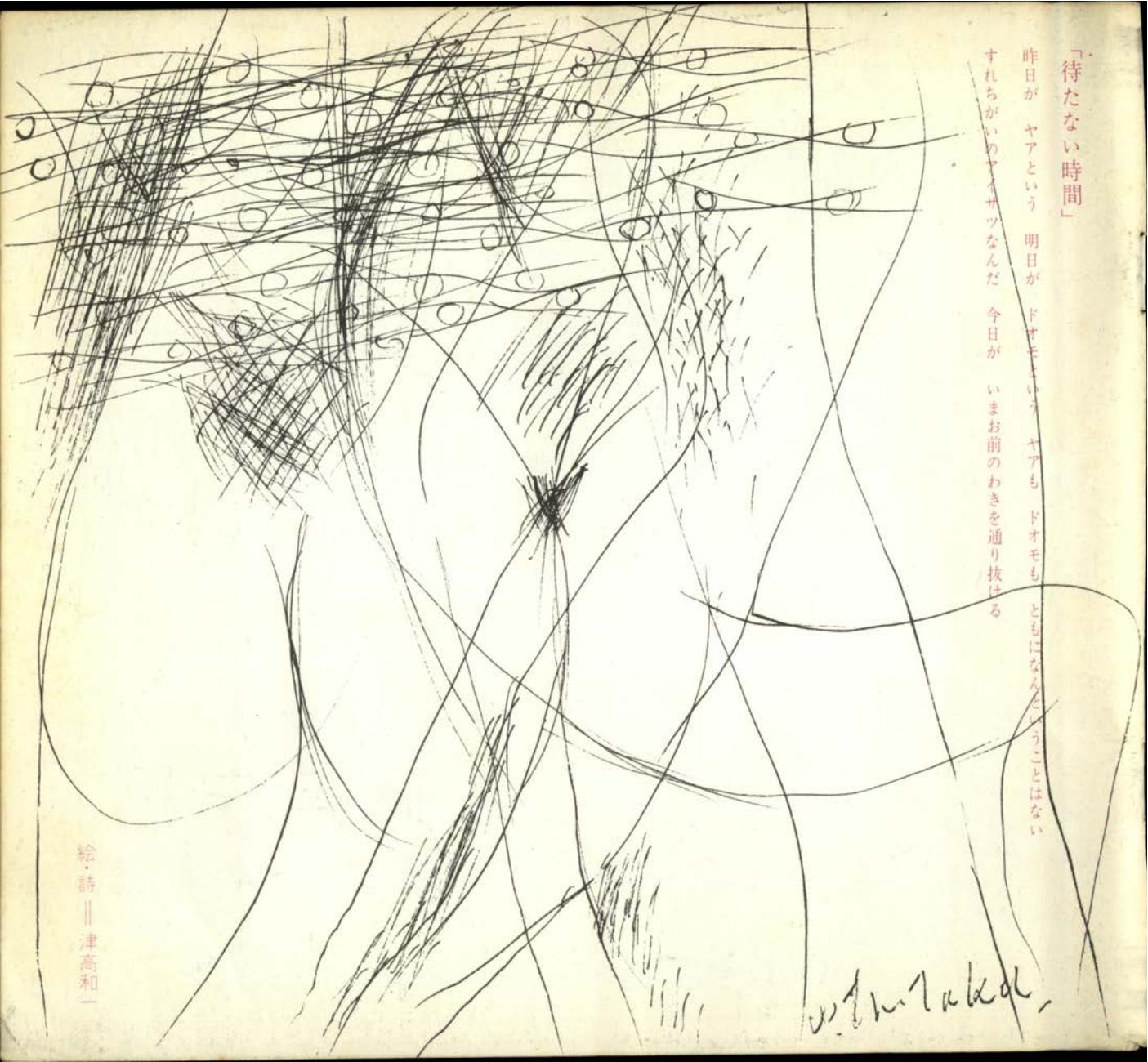
大阪＝阪神・高島屋・松坂屋

★本店＝東京－銀座四丁目

© 1967-4

「待たない時間」

昨日が ヤアという 明日が ドスモトイフ ヤアも ドオモモ ともになんとしあことはない
すれちがいのヤイサツなんだ 今日が いまお前のわきを通り抜ける





ダイヤ・天然宝石

神戸宝石
トアロード TANIJI
⑬ 2 3 9 7

ズームアップ

日高マリ（タイニイ・スパローズ・神戸女学院大学四年生）

カメラ・浜岡 収

7

民族の心を伝え、歌う。フォーク・ソングはブームをのりこえて、今や人びとの心にすっかりとけこんでいる。なかでも学生を中心とする若い人たちのフォーク熱は高い。神戸にもそのような学生フォーク・ソングのグループは数多い。タイニイ・スパローズは菊地君（甲南大）日下君（甲南大）とマリちゃん（神戸女学院大）の三人のグループ。力強いギターと男性の歌声をバックに、マリちゃんのすきとおるようによいな歌声がひびき、流れゆく。タイニイ・スパローズができるのは三年前、P.P.&Mのグループが好きと瞳やかせるマリちゃんは若い。レパートリーはP.P.&Mのもの、ボサノバ、ジルベルトのものなどに、菊地君のオリジナルな曲。フォークを通して得た友だちも多く、森山良子さんもその一人。フォーク・ソングは親しみ易く距離感がなく、聞き手と共に楽しめるのがうれしいという。趣味はスキー・テニス・音楽、それにお菓子を焼いたり、フランス刺しゅうをしたりするのが好きだ。心の素朴な男性を――といった彼女。これからもそのきれいな歌声を素朴な心でうたい続けてゆくことだろう。





Tajima

*** 宝石店 タジマ 元町2丁目(山側) TEL.33-0387-2552

WGエメラルド10コ・ダイヤ40コ入り
帶止め兼用のブローチ

タジマの特典／当店でお買上けのダイヤ指輪は販売価格で引取り交換をお約束しております

確信をもって
タジマの目が
選んだ
世界の
宝石の名品！

ズームアップ

カメラ・浜岡 収

8

森川

列(神戸新聞社文化事業局事業部 日米合同アラスカ登山隊報道担当)



神戸市の属する兵庫県は今年で、県政百年をむかえる。それはまた開港百年の年でもある。県と姉妹州であるワシントン州、市と姉妹都市であるシアトル市との友愛の絆は深く結ばれている。兵庫県山岳連盟、神戸新聞社の主催で、日米合同アラスカ登山が企画、実行されようとしているとき、アラスカもまたアメリカに併合されて百年目をむかえている。宮崎辰雄団長、津田周二隊長以下十四名の隊員から編成されている日本隊で、報道を受けもつてゐるのが森川列氏。(神戸新聞社)三十三才。六甲中学に通つていたころから山の魅力にとりつかれ、それ以来、現役として活躍し、日本全国の山はほとんど登りつくしたという。

「山の良さは登つた者でないと分りませんよ。苦労して山頂に立つたときの壮快さ、あの味ですね」外国遠征は初回の経験、年令的にもあまり若いとはいえないで、今度は「縁の下の力持ち」になる積りで参加。準備が完全にととのえ、半ば成功したも同然といわれる登山だけに、目下、準備にとびまわっている。目標指す山はアラスカ BONA 山塊の未登峰へ四、四〇一メートルで、名前はまだついていないという。成功と日本名を期待したい。

TASAKI PEARLS

春の光 それは優雅な タサキパール ☆

田崎真珠

本店 神戸市薙谷区旗塚通6-9
三宮店 神戸新聞会館秀品店内



「春の光」の真珠はパール・マークのお店で。

日本真珠小売店協会加盟店



俳句の形体は五七五の七文字だとは限らない。一茶・芭蕉の時代から子規の時代へそしてさらに現代へと、時代の流れによって俳句の内容も形体も少しずつ変ってきた。文語俳句から国語の現代語俳句へと幅も広くなり、字数も十七字、二十字と自由である。

五七五の俳句原型では詩的な思考感覚が充分盛り込まれない場合に定型の活用という積極的にテクニックを働かせる。そこに現代俳句の新しい主張を創り出そうとするわけである。

生田神社境内の茶室前につどうのは神戸俳人協会の面々。俳

句の持つ完成された美をこよなく愛し、永年俳句を読みづけている。メンバーヒロゼ、佐藤一九八（季節）はそれぞれ、自分の句の持つ性格を表現する同人誌を主宰しているリーダーばかりである。

常に自ら固執しないようと定期的に例会を持ち互いに句を読み交わすことにしているそうだ。

写真は左から上田富丈（ギンガ）佐藤一九八（季節）橋間石（白燕）大川治一郎（くれない）加藤不二也（水明）二人おいて永田耕衣琴座）六車井耳（同人）加藤洋星子、村上嶺子（水鳥）早川邦夫（青玄）伊丹三樹彦（青玄）赤尾兜子（渦）カツコ内は所属雑誌「生田神社境内で2月5日撮影



パリのプレタポルテが ムラタパールの輝きが
あなたの春を創ります

村田*真珠/銀座山岡*毛皮/舶来婦人服飾
Murata ムラタ
さんちか*レディスカウン・TEL 39-3886~7



O. Minato



表紙／小磯良平

- 1 Second Cover／津高和一
- 3 ズーム・アップ／撮影＝浜岡収
<7>日高マリ <8>森川列
- 7 ある集い／神戸俳人協会
- 11 わたしの意見／小野富次
- 13 隨想／メキシコ便り 2・中西勝・咲子
　　バリぶらぶら歩き・松谷武判
- 16 ある集い＝その足あと／赤尾兜子
- 19 隨想／神戸・今と昔・小山祐士
　　隨想／第二のふるさと・田中千代
　　隨想／神戸の詩人たち・伊藤信吉
- ✓27 神戸っ子対談
　　宮地襄二・角南猛夫
- 31 経済ポケットジャーナル
- 32 神戸の集いから
- ✓35 バイオニア神戸<4> 川崎正蔵／小川誠
- 41 Let's Go American Foot Ball④／米田満
- ✓42 神戸のアーバンデザイン／水谷頼介
　　神戸のモダーンリビング／チームUR
- 44 CINEMA ⑨／淀川長治
- 46 KOBE'S SHIP LOUNGE ⑨／文・玉奥章
- 48 動物園飼育日記⑪／亀井一成
- 51 れんざいマンガ⑯ベッコ／永井文明
- 52 グラビア／春の旅
- 60 Kobe Look／福富芳美
- 67 特集・カメラルボ
　　神戸港を行く
- 83 男の気持③いやな女／向井修二
- 84 INGコーナー
- ✓86 神戸遊戲誌⑬・サッカー<3>／青木重雄
- 88 神戸うまいもん巡礼⑮／赤尾兜子
- 90 淑女入門③・カ梅レオン淑女／鶴居羊子
- 92 ポケットジャーナル
- 96 ここにこんな人がいる＝五色のサイコロ
- 100 異人館物語第五話
　　耽溺の詩人モラエス③／小山牧子
- 110 連載小説＝兵庫の女<十四回>／武田繁太郎
- 117 対話12ヶ月
　　対話＝安水穂和・カ梅ラ＝緒方しげを
- 120 銀行抄／中川衣裳店・時雨茶屋・赤根和生
　　カ梅ラ／米田定蔵・赤松慶三郎
　　レイアウト・カット／港野千穂



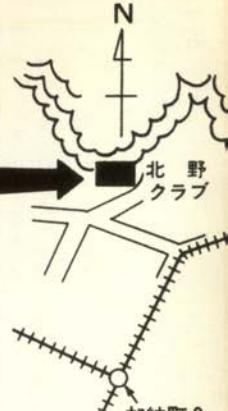
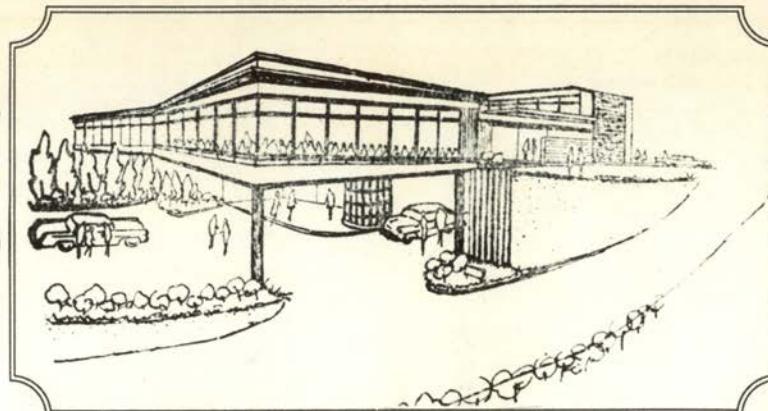
KITANO CLUB

Restaurant

CORAL KITANO

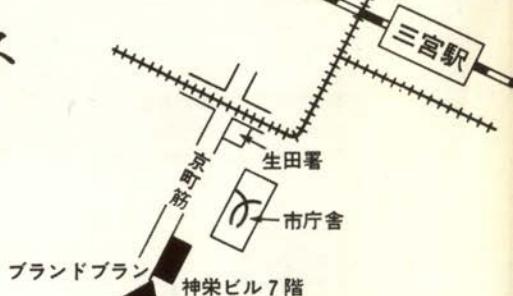
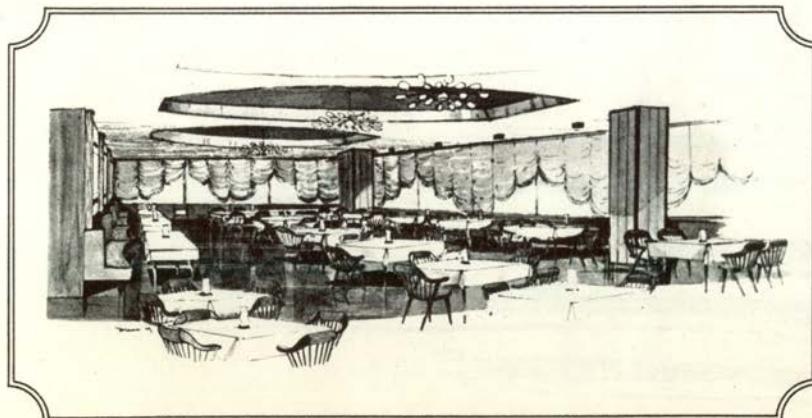
Tel. 23-2251

北野町



ヨーロッパ伝統の味とサービス

- ★年中無休営業いたしております
- ★パーティ・ご会合なども、特別メニューでご注文をうけたまわっております。



4月中旬開店



Restaurant

BLANC de BLANC

ブラン ドウ ブラン

Tel. 32-1455

京町77-1

★広く人材を募集中 <開店まで北野クラブにて受付中>

神戸カーニバル
に望む

小野富次

〈毎日新聞神戸支局長〉



京都、大阪、福岡などには祇園祭、天神祭、博多どんたくなど、全国に名の知れた祭がある。が、神戸にはそれがない。街の歴史がごとしで百年。もとはといえば、ほそぼそとした寒村にすぎなかつたのだから、歴史のかと、伝統の古さを持つ“古都”に比べて、やむを得ないことかも知れない。しかし、街をあげて騒ぎ、楽しめる大きな祭がないのは、神戸っ子にとって、やはりなんとなく、さびしいことだと思う。

祇園祭にしろ、博多どんたくにしろ、それは確かに古いものには違いないが、いまほど人に知られるようになるまでには、幾多の創意、工夫が加えられてきた。これをはぐくみ育ててきた先人の努力の結晶もある。のんべんだらりと、古くから伝わるものを守ってきただけでは、いわゆる“大祭”は育たなかつたろう。その意味で、祭は、つくり出されるものである。

神戸の歴史は、京都、大阪などに比べて浅い。しかし、そこに住む神戸っ子は、流行の先端をきり一流品を愛したりせず新しいものを作り出していく恵まれた才能をそなえている。郷土を愛することでも、他都市の住民に、決して、ひけばとらない。その神戸に、いかにも神戸らしいと感じさせる祭が、これまでに育っていないのは、不思議である。開港百年を迎えたいま、国際港都“こうべ”を象徴するような祭が生み出されても少しも不自然ではなかろう。

五月に行なわれる百年祭行事の中でとりあげられた“神戸カーニバル”には、新しい祭を、神戸の街に創り出していこうという意欲がこめられている。

ざん新たなアイディア、奇抜なふん装、あつと驚かす創造性を競い合い底抜けの明るさを、ともに楽しみ合おうといふこのカーニバルには在神各國の外人グループも参加するので、神戸でないと味わえない独特的のカラーがふんだんに發揮されるだろう。

このカーニバルは、いま全市民的な盛り上りのなかで着々とその準備が進んでいる。しかし、こんごとも“神戸名物”として全国に知れ渡り、永遠に続くかどうかのカギは、市民の掌中にある。市民の間に、これを育てあげるのだという一致した強い行動性がない限り祭は育たない。が、神戸市民には、その力は十分にあると、私は信じている。

日本に例のない神戸カーニバルの成否は、市民の真価を実り豊かなものになつてもらいたいと思う。

京都、大阪、福岡などには祇園祭、天神祭、博多どんたくなど、全国に名の知れた祭がある。が、神戸にはそれがない。街の歴史がごとしで百年。もとはといえば、ほそぼそとした寒村にすぎなかつたのだから、歴史のかと、伝統の古さを持つ“古都”に比べて、やむを得ないことかも知れない。しかし、街をあげて騒ぎ、楽しめる大きな祭がないのは、神戸っ子にとって、やはりなんとなく、さびしいことだと思う。

祇園祭にしろ、博多どんたくにしろ、それは確かに古いものには違いないが、いまほど人に知られるようになるまでには、幾多の創意、工夫が加えられてきた。これをはぐくみ育ててきた先人の努力の結晶もある。のんべんだらりと、古くから伝わるものを守ってきただけでは、いわゆる“大祭”は育たなかつたろう。その意味で、祭は、つくり出されるものである。

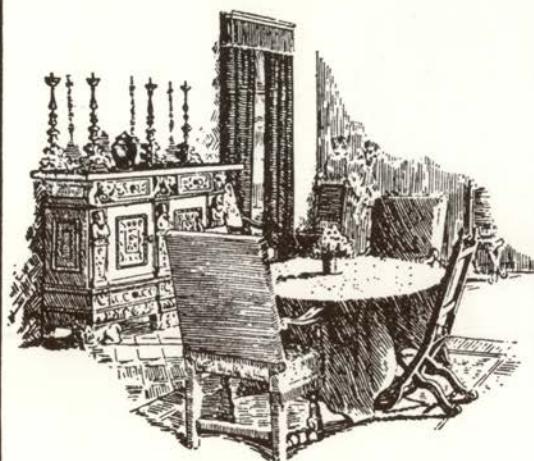
神戸の歴史は、京都、大阪などに比べて浅い。しかし、そこに住む神戸っ子は、流行の先端をきり一流品を愛したりせず新しいものを作り出していく恵まれた才能をそなえている。郷土を愛することでも、他都市の住民に、決して、ひけばとらない。その神戸に、いかにも神戸らしいと感じさせる祭が、これまでに育っていないのは、不思議である。開港百年を迎えたいま、国際港都“こうべ”を象徴するような祭が生み出されても少しも不自然ではなかろう。

五月に行なわれる百年祭行事の中でとりあげられた“神戸カーニバル”には、新しい祭を、神戸の街に創り出していこうという意欲がこめられている。

ざん新たなアイディア、奇抜なふん装、あつと驚かす創造性を競い合い底抜けの明るさを、ともに楽しみ合おうといふこのカーニバルには在神各國の外人グループも参加するので、神戸でないと味わえない独特的のカラーがふんだんに發揮されるだろう。

このカーニバルは、いま全市民的な盛り上りのなかで着々とその準備が進んでいる。しかし、こんごとも“神戸名物”として全国に知れ渡り、永遠に続くかどうかのカギは、市民の掌中にある。市民の間に、これを育てあげるのだという一致した強い行動性がない限り祭は育たない。が、神戸市民には、その力は十分にあると、私は信じている。

家具・室内裝飾・工芸品



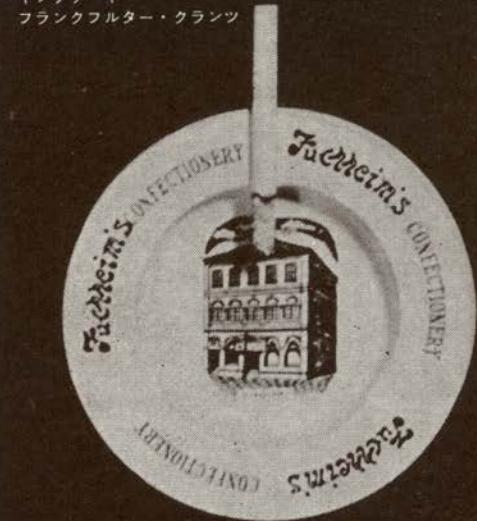
永田良介商店

大丸前 T E L { ⑩ 3 7 3 7
 3 7 3 9

をき菓子のとツのいとるイ統味
憩ひ飾ド伝風



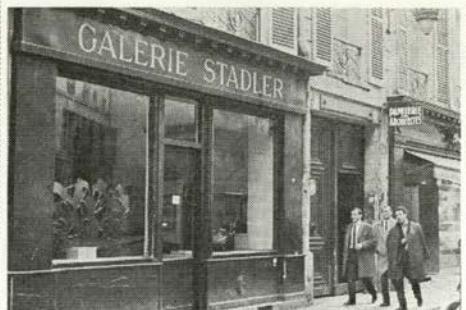
バウム・クーヘン
ビスケット
キングケーキ
フランクフルター・クランツ



トドイツ菓子 本店 神戸三宮生田神社前
TEL (33) 1694-8064
Fuchsim's 三宮店 神戸丸太前市電筋
TEL (33) 2101 (39) 3808
ユーハイム さんちか店 三宮地下街スイツタウン
TEL (39) 3 5 3 9

東京/銀座店・渋谷店 その他全国有名百貨店

隨想二題



Rue do SEINE
リュウ・ド・セーヌ通りの「ギャラリー・スタドラー」

三つ編みにしてリボンをたらす、ジブンー女のようにないでたちでノルテ（北風）の吹きまくる砂の町を歩いているのです。

そして、市場から帰ると昼ご飯の用意、こちらではお昼にご馳走を食べる習慣です。今日はビステック・デ・メヒカノ（メキシコ風ビフテキ）にいたします。

まず、固い肉を薄目に切って、石の上でよく叩き、アホ（にんにく）とサル（塩）を石のすり鉢ですりつぶしたものをたっぷりぬりつけます。油をたっぷり入れた鍋でこの肉をよく焼いてから、玉ねぎトマト、チレ・ヴェルデ（青とうがらし）を適当にきって加え、しばらく煮こんでできあがり。

アホとサルの量がコツのようではじめ近所のおばさんに作ってもらったときが、最高においしくてその後、つくるたびに塩からかたり、水くさかたり、やはり土地の人のようにこしらえるのは、むずかしいものです。お米を手のついた土器の壺で炊き、ご飯やトルテア（とうもろこしパン）の残りに塩えびやアホを入れて作ったセレサ自慢の漬物を、土しようと一緒にお茶漬けにして、「アーモう死んでもいい」とか何とか大満足して、涼しいベットにひっこり返って昼寝。

どうやら、私、セレサもいつかしらこの異国の魔力にのせられてしまったらしく、金の耳環をつけた両の耳に穴をあけ、長いスカート、刺しゅうの上着、髪を

メキシコ便り

△その2△

中西 勝・咲子

△洋画家・二紀会委員▽

メキシコのファイチタではお伽話が現実になってあらわれるのです。神戸のジャンジャン市場は惜しまれながらも、とうとう掃除をされてしまつた由ですが、ここメルカド（市場）を中心に、メキシコのハダシの人たちが生みだしている時代はなれのした異様な雰囲気もいすれは消毒されてしまふ運命にあるのでしよう。

このメルカドの人びと……。色とりどりの布をひるがえし、頭

に物をのせて、あるいはナランハ（みかん）の山のかげに、また、少しばかりの落花生を並べた新聞紙のかたわらに、終日、つくもってて角で車をひかされている瘤牛。黒い山羊にひかせた車にのる少年石ころのようにしてと無関係に道で餌をあさる豚ども。へんな犬の壁から、そのままぬけだしてき

いる黒い人。アルタミーラの洞窟に物をのせて、あるいはナランハ（みかん）の山のかげに、また、少しばかりの落花生を並べた新聞紙のかたわらに、終日、つくもってて角で車をひかされている瘤牛。黒い山羊にひかせた車にのる少年石ころのようにしてと無関係に道で餌をあさる豚ども。へんな犬の壁から、そのままぬけだしてき

いる黒い人。アルタミーラの洞窟に物をのせて、あるいはナランハ（みかん）の山のかげに、また、少しばかりの落花生を並べた新聞紙のかたわらに、終日、つくもってて角で車をひかされている瘤牛。黒い山羊にひかせた車にのる少年石ころのようにしてと無関係に道で餌をあさる豚ども。へんな犬の壁から、そのままぬけだしてき

「シーツの砂をよく払ってねなさいよ」

「イヤ、もう砂なんか気にしないよ。考え方をかえたんだ。ふとんの中になれると思うからマチガうんだな。砂の上にねてると思えば、オイ、お咲、今日は砂の入れ方がちと足りねえな。もう一寸もってこい！と、こうなるんだ」

全く、この神経でないとここではいけません。ノルテ（北風）のきつい日など、朝、部屋から掃きだす砂は大げさにいえばバケツにいっぱいもあります。洗濯物もせつかくの太陽は輝やいても戸外へは干せません。『砂の女』という映画がありましたら、あの実感で寝起きがさめるころ、近所のベッドで風景や市場の写生を、風の日や夜は子供たちをモデルにしたり、昼のスケッチをアレンジしたのなどを、全くよく描きつづけています。毎日、十時間くらい描いています。

この間、セニョール芝山が近くのカンテナ（酒場）にビールを飲みにきたフチタンの市長を紹介して下さいました。きれいに刈りこんだ口ヒゲの市長は「フチタンで気持のよい生活を楽しむれるよう

| 14 |

に」と、愛想よくいわれたあとに

「日本の造船その他の重工業のフィルムを、なぜ早くフチタンにもまわしてくれないのか。メキシコ

市やベラクルーズの方ばかりにもつていつて……」と、苦情をいわれました。われわれ流れものの絵かきにまで、開口一番、こういうことをいわれるのは、やはり、この国の指導者層の方々が、日本のような近代工業的発展を、切実に願っている証しなのです。

たしかに日本とアメリカの一部しか知らない私たちの目からみてもこの国の近代化は遅れているよう思います。土地が近いためかアメリカ偏向はかなり感じられます。寝起きがさめるころ、近所のベッドで風景や市場の写生を、風の日や夜は子供たちをモデルにしたり、昼のスケッチをアレンジしたものなどを、全くよく描きつづけています。毎日、十時間くらい描いています。

パリぶらぶら

松谷武判

△洋画家・具体美術

昨年の十一月二十三日の夜、羽田を出発して以来、今日まで、パリ生活早や三ヶ月になろうとしています。私の場合、フランス政府から大学または美術学校に入ることを強要されておらず、毎日自由に過ごしております。

なお強く心をひかれるのはメキシコインディオの生活なのです。

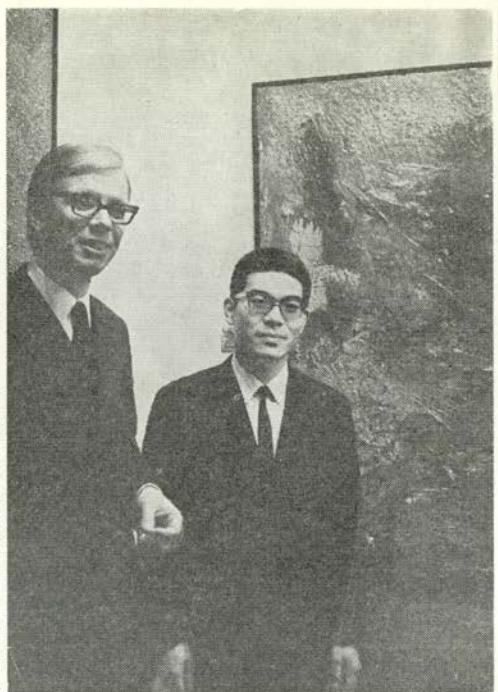
しかし、現代の大半の人びとはすでに人類の背負わされた宿命、わけの分らぬ重荷などはからりと投げすべて、人間の作つたムダの

ない少し巾が足りないのが難だけ

どとて早く目的地に向つて走つてくれるアメリカの砂漠の中のフリードウェイ（高速道路）のように

画然として、確實なベルトコンベアの上に、我がちにとびつてしまつたのだけれどしかし、ひょつとしてこのベルトがどうかなつたりして、暗い地上に放りだされたりすれば、アメリカ人たて私たちたつて今日にもすぐ、この人たちと同じようになつてしまつたのが人間なのだ。だから、万一、放り出されたときには、この人たちがシジホス神のような支え方でからくもつないでくれる人間の真の生命を、また、お願いして分けてもらわなければならぬ。これは本当のことだと真剣に考えたことです。

△在メキシコ



スタドラー氏と松谷氏

私もピカソ、ダダ展をはじめ主な美術館は一通り歩いてみました。が、作品の多いこともさることながら、ていねいに陳列され、設備の整った美術館には感服しました。ルーブル美術館など、日曜日は無料で公開され、家族連れも多く見かけます。画廊も美術館に劣らず沢山あるようです。私もぼつかつ行きはじめましたがフォーブル・サントノレ通りとリュウ・ド・セース(通り)などよく足を運びます。フォーブル・サントノレ通りはご存知のようにカルダンの店をはじめシャレタ高級服飾の店が並んでいる通りです。その一角を少し入った所に E. DAVID ET M. GARNIER TABLEAU X MODERNES があり、ショウ

エの個展をやっておりました。すぐ近くのギャラリー、ヨーロッパではフォンタナの作品も見ました。もう一つ、リュウ・ド・セース(通り)は、私のホテルから歩いて十分ほどでいけます。ちょうど私の所属しております具体グループのメンバーがこのセース通りにある、ギャラリー・スタドラーで昨年小品展を企画して下さった関係で、一度尋ねてみたく思つておりました。あれは一月二十五日のお過ぎでしたか時間も充分あります。ふらっと、リュウ・ド・セースへ出かけてみました。この通りは、車が一台通れるほどの道巾で、版画専門の画廊や、写実画の画廊、骨董品屋、絵の具屋、本屋など、近くの美術学校と共にすら

つとつづいています。その中に、ギャラリー・スタドラーがありました。運良くミシエル・タビエさん(美術批評家)がおられ、二十七日から一月二十六日まで企画された、'ESPACES ABSTRAITS' 展の飾り付けの真最中でした。その日は忙しいのでと、二十七日、夕方六時からのオープニングに招待されました。出品者は、タビエス(スペイン)ラガン(フランス)セルバン(フランス)ラーケイン(フランス)スペカニヤ(フランス)ドナッティ(U.S.A.)ボイレ(イタリー)オッソリオ(イタリー)、日本からは前田常作、佐藤敬、勅使河原蒼風、大西茂、吉原治良先生、などの作家二十二名の出品でした。オープン後、画廊内は見る見る作家や招待者で一杯になり私はタビエス、セルバン、スペカニヤ、ボイレさんなどと話しあり、久し振りで心がもり上つてくるのを覚えました。

スタドラーの前にある。ギャラリー・ミシェル・クウテュウリエではフォートリエの個展をやっていました。地下が穴倉のようにデイザインしてあり照明にフォートリエの彫刻が浮き出て大変印象的な画廊。芸術家に国境なしの通りで、大変楽しいパリの一夜でした。

△在パリ▽

あるといつていいだらう。神戸を中心とし、県下の主要俳人三十人の作品を収めて七〇ページ。翌年の第二集にはさらに九名がふえ、て発刊、昨年秋には十二集を出しそうである。年一回この句集をつづけて、約百人の作品を収め、県下俳壇を俯瞰できる二百余ページの本として、

一郎、加藤拝星子、木村立桐、倉橋弘躬、後藤夜半、佐藤一九八、
沢井我来、永田耕衣、橋間石、早川邦夫、堀滴々亭、六車井耳、山口波津女、山本竹兜、吉川緑史氏
のほか会員二百人。一応大団体といえるのではないか。



★ある集い★★★★★★★★

神戸併壇を ささえる人々

赤尾兜子
ヘグラビヤ七百

27

この協会は、昭和十七年に創立された。二十一年の会員は十余名。流派によつてとかくカベをつくつて、交流していく俳人の風通しをよくしようというがその設立の趣旨。もつとも戦前の十年前後からこの機運があつたが、いろんな事情で不幸にも流産をくりかえした。

あるといつていいだろう。神戸を中心とした県下の主要俳人三十人の作品を収めて七〇ページ。その翌年の第二集にはさらに九名がふえている。年一回この句集をつづけて発刊、昨年秋には十二集を出して約百人の作品を収め、県下俳壇を俯瞰できる二百余ページの本とした。

ただこれしきのことがなかなか俳壇では実現しにくく、流派を超えたこういう年刊句集が生れたのは、全国で神戸がはじめてで、これを先鞭にその後各地からこの種の句集が出だしたのである。神戸という土地柄は開放的でといわれる。神戸俳人もまたその土壤を背負って、結社の閉鎖性を克服しているところに、私はこの協会の發展と年刊句集の発刊がつづくのだと思う。あわせて、長年理事長として会員の融和をはかった、加藤不二也氏の徳を多としなければならない。

そのほか、各新聞社と共催して俳句大会を開催、三十四年には、生田神社神徳館へ協会理事、顧問ら十七人が作品を額にそれぞれ自筆して献じたこともある。

一郎、加藤拝星子、木村立桐、倉橋弘躬、後藤夜半、佐藤一九八、沢井我来、永田耕衣、橋間石、早川邦夫、堀滴々亭、六車井耳、山口波津女、山本竹兜、吉川緑史氏のほか会員二百人。一応大団体といえるのではないか。
芭蕉・燕村のむかしはおくとして、神戸俳壇という名称が俳諧史に現われる起りは明治三十一年「又新日報」にいた斎藤渓舟が同紙に句を掲載、それを総合句集「俳句狸毫小諧」の一本にまとめてからである。明治以降だけに限つてみても、神戸というところは、日本の俳句発展の上に、かなり大きな位置をしめている。そして高名な作家や、現役作家も多い。超結社的にまとまつた神戸俳壇を支えるこの協会のこんごの使命は大きく、またビジョンも潤達にえがかれるべきであろう。

県下の先達俳人の業績の研究や
顕彰のほか、神戸という土地柄を
生かした地域社会への俳人参加、
近く行われる明治百年祭への企画
参加など、俳人みずからの積極的
姿勢を示してほしいものだと思
う。とくに自由な空気のある街だ
けに。

△併人・渦主宰△

△俳人・渦主宰▽

この協会が名実ともに、内容を整えたのは三十年前に「神戸俳壇

阿波野青畝、岩木躰躰、加藤不二
也、山口誓子、理事、赤尾兜子、
五十嵐搖水、伊丹三樹彦、岩井汲
花、岩谷孔雀、上田富丈、大川治

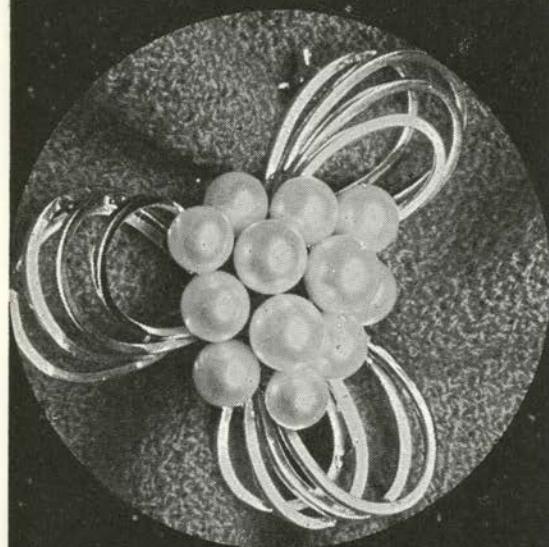
1

×

8

Kitamura Pearls

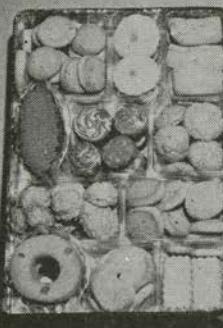
世界の人々に愛される
キタムラパール



北村真珠株式会社

神戸：元町店 TEL 33-0072
東京：スキヤ橋店 TEL <571>8032

賜物に、味覚の王者
ヒロタのクッキーを



洋菓子の
ヒロタ

〈神戸〉元町店・三宮店・さんちか店
秀品店

〈大阪〉梅新店・富国店・ウメダ店
大阪駅東口店・心斎橋店・戎橋店
ナンバ店・天王寺店・天満店・京橋店
守口店・新大阪駅店・淡路店・尼崎店
西尼崎店

LONGINES

流行をはこぶ
ロンジン

特約店

美田時計店

元町店・元町三丁目 TEL 33-1793
三宮店・さんちかファンシー・タウン TEL 33-8798

おんざら庵

きものと細貨
おんざら庵

神戸
西店 / 三宮センター街・電話 33-8836(代)
東店 / 三宮センター街・電話 33-0629
三宮店 / 三宮地下街・電話 39-4303

東京
銀座北店 / 銀座並木通り・電話 573-5298(代)
銀座南店 / 銀座並木通り・電話 572-4847
(京阪神銀座タウン)

18